

■東京都でのイベントをご紹介します

姉妹都市である調布市をはじめ、東京都内で木島平村のイベントが行われますので、お時間のある方は是非お越しください。

いくなか交流フェスタ in 調布がリニューアル!

- 期日…10月13日(日)
- 時間…正午
- 場所…調布駅前広場(ビックカメラ周辺)
屋外テントブース

姉妹都市盟約25周年を記念して始まった『いくなか交流フェスタ in 調布』を新元号「令和」のスタートにあわせてリニューアルします。

今年度は、ラグビーワールドカップ2019が日本で開催され、姉妹都市調布市も試合会場になります。ワールドカップ開催に併せて行われる、『調布スクラムフェスティバル』と同時開催します。

木島平村からは、新米やきのこ、新鮮野菜等の農産物の販売のほか、ハチミツやお菓子、加工品の販売、内山和紙の手すき体験といったプログラムをご用意し、ワールドカップで賑わう調布駅前でも木島平村をPRします。

リニューアルする『いくなか交流フェスタ in 調布』に対しても、ご理解とご協力をいただきますようお願いいたします。

イベント当日、時間のある方は是非調布駅前までお越しください。皆様のご来場をお待ちしております。

深大寺稻刈りの儀

- 期日…10月6日(日)
- 時間…午後2時
- 場所…調布市深大寺 境内

村長と深大寺住職、早乙女が、深大寺の客殿から仲見世を行列行進し、本堂前で稲刈りの儀を行います。

これは、『お田植えの儀』で植えた稲を刈り取るもので、収穫された米は、縁結び開運のお守りになり、参拝者に有料で授与されます。

昔ながらの衣装に身を包んだ早乙女の稲刈りをご覧いただけるほか、特産品の物販も行います。

お近くの方は是非お越しください。

板橋区民まつり(特産品販売)

- 期日…10月19日(土)～20日(日)
- 時間…19日 午前11時30分～午後6時
20日 午前9時～午後4時30分
- 場所…区立板橋第一中学校



お米は縁結びのお守りに



第8回コミュニケーション・スクール研修会

in 木島平に参加して

東京都多摩市 高藤 貴視(平沢出身)

去る8月17日に、若者センターに於いて表題の研修会が開かれ、応援団前会長の藤原さんをはじめ、数名の会員の方と、共に参加させて頂きました。

今回は、『子供も 大人も「共に学び」「支え合う」地域力を築こう!』をテーマに 小学生、中学生、高校生、そしてこどもカフェを運営する方々の取り組み発表がありました。

小学生の発表では、「私たちの農場づくり」ということで、後継者不足のため、放置されている遊休地を耕し、農業を体験し、自然との闘いの難しさ、収穫できた時の喜びや達成感が伝わってくる発表内容でした。

中学生は「英語で木島平を発信しよう」をテーマに、昨今、各観光地同様増え続ける外国人観光客を木島平村にも誘致しようと、英語で外国人客向けの村のパンフレットを作成し、飯山駅をはじめ、主要各所に置いてもらい、飯山駅では、生徒さん自ら、訪れた外国人観光客の方々に英語で村を紹介していくという取り組みが発表されました。その取り組みに共感されたふるさと応援団の岩下さんから、以前自ら体験された事例をあげ、「修学旅行の際に、京都・奈良には外国人観光客が多いので、そこでパンフレットを配り、木島平村をアピールするのも効果があるのではないか。」との意見も出され、私もなるほどと共感させられました。

そして、わが母校でもある下高井農林高校の取り組みは「モノづくりへの挑戦」先輩から後輩へ受け継がれる確かな技術」をテーマに、馬曲温泉の水車の復活、荒れた竹林の竹を生かした灯り、伝統の小沼ぼうきづくりのチャレンジと、どの課題も生易しいものではないのに、真剣に取り組む姿をスクリーンを通し伝えてくれました。

最後に「こどもカフェ」の取り組みについての話を聞かせていただきました。なぜ今こういう場が必要なのか?その重要性、皆が求めていた。特に発表の中で心に残ったのは、「お父さん、〇〇ちゃんと遊びたいから車で送って」というお子さんがいるという現実。少子化で小学校も一校だけ、でも木島平は広い。とても北部から南部まで遊びに行くのは簡単ではないだろう。そこで、バスを利用し、カフェに集まり、楽しめる機会を提供していくのだという。

そのあとの部では、熟議ということで少人数の班に分かれ『ふるさと つながり合う私たち「いまとこれから』』をテーマに話し合い、発表がありました。

この会に参加させていただき、正直、自分たちの世代と今の子供たちとの生活、勉強内容のギャップを痛感させられました。

しかし、それは当たり前前で、四十年前は黒電話だったものが、今では小学生でも持っている子がいる携帯電話時代。クーラーもついていない車だったのが自動運転の時代が来ます。

しかし、未だに変わらないものは、人との繋がりに。

そして大事なことであり、それが残る木島平村は誰にも自慢できる故郷であり、いつまでもこれだけは変わらないでいてほしいと思う中年オヤジの取り留めない文章でした。



熟議の様子

会報原稿募集中!

【毎月5日までに左記へ】送付ください。】

【送付先】〒389 2392 木島平村役場内 ふるさと応援団事務局

FAX 0269 824121

✉ seisaku@vil.kijimadaira.lg.jp